

## 献呈の辞

|       |  |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者: 明治大学法律研究所<br>公開日: 2011-02-28<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 保住, 昭一<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="http://hdl.handle.net/10291/9253">http://hdl.handle.net/10291/9253</a>                              |

## 献呈の辞

立石龍彦先生の古稀の祝賀を記念して、われわれ法律論叢の同人が相集って記念論文集を刊行し、これを先生の座右に献呈することになったことは、まことに慶賀にたえないところであります。

先生は、昭和一八年九月に東京帝国大学文学部哲学科を卒業され、翌一〇月に同大学院に進まれております。その後昭和二二年四月に旧制明治大学専門部講師に任命され、翌年二月には同専門部助教授に昇格されておりますが、昭和二四年四月新制大学の発足と同時に明治大学法学部の専任助教授に、同三三年四月に専任教授に就任され、以来今日まで法律哲学ならびに法律思想史の講座を担当されてきました。その間に昭和四五年一〇月から同四七年九月までは法学部長、同四九年四月から同五五年三月までは大学院法学研究科委員長の要職を歴任され、大学の教育行政にも多大の貢献をされたのであります。

このように、立石先生は多年にわたって明治大学法学部の教育に尽力されてきたのであります。が、それと同時に、先生は、温厚篤実な人柄であるとともに、学問研究に対してはまことに厳しい精神の持主であり、研究生活の先輩・同僚としてわれわれにどれほど学問的刺激を与えたかし

れません。

このたび古稀を迎えられ、昭和六三年三月末をもって定年により専任教授を退かれることは、制度上止むを得ないことではあります。が痛惜にたえないところであります。

われわれは、先生の一層のご健勝を祈念するとともに、わが法学部ならびに明治大学の発展のために、今後ともご尽力賜わらんことを願いつつ、献呈の辞といたします。

昭和六二年一二月

法学部長 保 住 昭 一